

「戦跡碑」：字阿波連渡嘉志久原 876 番地 昭和 54 年 3 月建立



碑文：ここに記すのは、昭和 20 年（1945 年）この島に於いて戦われた激しい戦闘と、島民の死の歴史である。

大東亜戦争の最後の年の 3 月 23 日より、この渡嘉敷島は、米軍機の執拗な空爆と、機動部隊艦艇からの艦砲射撃にさらされた。山は燃え続け、煙は島を包んだ。

当時島にあったベニヤ板張りの船を利用した、夜間攻撃用の特攻船艇部隊は、出撃不可能となり、艇を自らの手によって自沈するようにとの命令をうけた。こうして、当時、島にあった海上艇進三戦隊、同基地隊などの将兵 315 名は、僅かな火器を持っただけで、島の守備隊とならざるを得なかった。

3 月 27 日、豪雨の中を米軍の攻撃に追いつめられた島の住民たちは、恩納河原ほか数か所に集結したが、翌 28 日敵の手に掛かるよりは自らの手で自決する道を選んだ。一家は或いは、車座になって手榴弾を抜き或いは力ある父や兄が弱い母や妹の生命を断った。そこにあるのは愛であった。この日の前後に 394 人の島民の命が失われた。

その後、生き残った人々を襲ったのは激しい飢えであった。人々はトカゲ、ネズミ、ソテツの幹までを食した。死期が近づくと人々の衣服の縫い目にたかっていたシラミはいなくなり、まだ辛うじて呼吸を続けている人の目に、早くもハエが卵を生みつけた。

315 名の将兵のうち 18 名は栄養失調のために死亡し、52 名は、米軍の攻撃により戦死した。

昭和 20 年 8 月 23 日、軍は命令により降伏した。

「8 月 20 日、第一中隊前進陣地ニ於テ、各隊兵器ヲ集積シ、遙力東方皇居ヲ拝シ兵器訣別 式ヲ行ウ。太陽八輝キ、青イ空、青イ海、周囲ノ海上ニ八数百ノ敵艦艇ガ静カニ遊戈或イハ碇泊中ナリ、唯、茫然、戦ヒ既ニ終ル」

（陣中日誌より）昭和 54 年 3 月 曾野 綾子 撰



特攻艇と渡嘉志久湾